



「保険料1139万円取りすぎ(宮崎・鹿児島

社保事務所)」「社保事務所が記録見落とす・年金500万円、時効に…(兵庫社保事務局)」「年金台帳、市町村「ない」、納付記録、各地で廃棄…」とこの2~3日

の記事だけでも驚くような見出しが紙面に踊っています。また一方で「国より高給・6割超、独立行政法人・スリム化に逆行」「独行政法人、天下り先への発注約7割が競争入札でなく

「中小企業に役立つ製品とサービスを提供し…、顧客企業を発展に導く使命をもって分析業務を行う」とある経営状況分析機関はパソコンの表面にMission(使命)を書いています。

経営状況分析は公共工事受注のパートナー=経審の第一関門ですが、3年前に規制緩和され、従来の(財)建設業情報管理センター(CIIC)以外に、20程の機関が誕生しました。当事務所は当時のどの機関を利用したらいいのか3つの観点をお知らせしました。

社保庁と火の車の国家財政の一方で…!

随意契約…」とこれ又、不可解な記事が目を引きまます。さらに追い討ちをかけるように「国の借金、最多834兆円、国民1人653万円、政府保証債務を含めると同692万円…(財務省)」と火の車の国家財政

を報じる記事が出ています(6/21~6/26の朝日)。

「100年安心の年金へ」「改革なくして成長なし」「ニッポン活性!」など3~4年前の選挙スロガンがまるで絵空事であったかのように虚しく響きます。美しい日本の実像は霧の中です。



それは①「信頼性」②「煩わしさ」③「速さと費用」でした。3年たった今、この観点で検証してみました。まず①ではすでに6機関が消滅し、占有率ではCIICとワイス「公共ゲートシステム=WPDS

CIICと軍配は? 経営分析機関の現在!

の2機関が大きい②ではWPDSが電子申請可能で

紙申請をしのぐ③の「速さ」ではCIICが約7日に対しWPDSが約4日、「費用」はWPDSの方が安く、他のサービスも付く…とWPDSに軍配が上がります。



面倒なパスポートの申請は、郵送で出来る当事務所からの代理申請をご利用下さい!